

製品名: PARP-1 (アセチル-K521) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06249**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	PARP1 ADPRT PPOL Poly [ADP-ribose] polymerase 1 (PARP-1) (EC 2.4.2.30) (ADP-ribosyltransferase diphtheria toxin-like 1) (ARTD1) (NAD(+) ADP-ribosyltransferase 1) (ADPRT 1) (Poly[ADP-ribose] synthase 1)
別名	
遺伝子 ID	142.0
SwissProt ID	P09874
免疫原	ヒト PARP-1 由来の合成アセチルペプチド。AA 範囲: K521

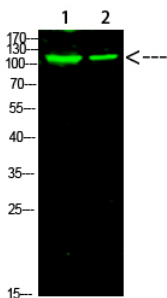
背景

この遺伝子は、クロマチン関連酵素であるポリ(ADP-リボシル)トランスフェラーゼをコードしており、この酵素は様々な核タンパク質をポリ(ADP-リボシル)化によって修飾します。この修飾はDNAに依存しており、分化、増殖、腫瘍形成といった様々な重要な細胞プロセスの制御に関与するほか、DNA損傷からの細胞回復に関わる分子イベントの制御にも関与しています。さらに、この酵素はファンconi貧血の変異部位である可能性があり、1型糖尿病の病態生理にも関与している可能性があります。[RefSeq提供、2008年7月]、触媒活性: NAD (+) + (ADP-D-リボシル) (n) -アクセプター=ニコチンアミド+ (ADP-D-リボシル) (n+1) -アクセプター、機能: クロマチン構造とDNA代謝に関する限られた数のアクセプタータンパク質のポリ(ADP-リボシル)化を触媒することにより、塩基除去修復(BER)経路に関与する。この修飾はDNA損傷後に起こり、DNA鎖切断の修復につながる検出/シグナル伝達経路の必須ステップとして現れます。、その他:NAD(+)のADP-D-リボシル基は、ヒストンまたは酵素自体の受容体カルボキシル基に転移され、さらにADP-リボシル基が末端アデノシン部分の2'位に転移され、平均鎖長が20~30単位のポリマーが形成されます。、PTM:PRKDCによってリン酸化されます。DNA損傷時にリン酸化される(おそらくATMまたはATRによる)。、PTM:PARP2によってポリADPリボシル化される。、類似性:BRCTドメインを1つ含む。、類似性:PARPαヘリカルドメインを1つ含む。、類似性:PARP触媒ドメインを1つ含む。、類似性:PARP型ジンクフィンガーを2つ含む。、サブユニット:塩基除去修復(BER)複合体の構成要素で、少なくともXRCC1、PARP2、POLB、LIG3を含む。PARP2とホモおよびヘテロ二量体を形成する。PARP3、APTX、SRYと相互作用する。SWAP複合体は、NPM1、NCL、PARP1、SWAP70から構成される。TIAM2およびZNF423と相互作用する。、

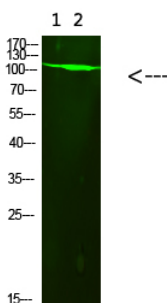
研究分野

塩基除去修復

画像データ



PARP-1 (アセチル-K521) ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晚) を用いた1,マウス心臓細胞および2,マウス脳細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1時間)



1,293t 2,マウス脳細胞を PARP-1 (アセチル-K521) ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晚) でウェスタンブロット解析した。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1時間)

